

基本目標	重要施策 重点実施事項	具体的取り組み内容	取組経過・今後の取組み等
地域の活性化・協同活動の活性化	くらしの活動の実践 (主に組合員が参加)	<ul style="list-style-type: none"> ●くらしの活動大会 ●地域特性を踏まえた1支店1協同活動 	<ul style="list-style-type: none"> ◆600名参加のもとくらしの活動大会を開催 ◆全27支店で独自企画の協同活動を実施
	食育・食農教育 (組合員、地域住民が参加)	<ul style="list-style-type: none"> ●年代別ちやぐりんスクール ●農業体験学習(小中学校対象) ●行政等と連携した出前食育活動 ●農泊の推進、グリーン・ツーリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆年代別に開催、70名参加(延べ18回) ◆管内16校で農業体験学習を実施 ◆幼稚園・保育園等で年19回(延べ627名)の出前食育活動を実施 ◆教育旅行11校(1,071名参加)、定住・就農を目的としたおとな体験ツアーを実施
	子育て世代・次世代後継者・高齢者支援 (組合員、地域住民が参加)	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てフリースペース ●料理教室(子育て世代対象) ●婚活活動 ●健康予防活動 ●高齢者向け大学 ●福祉施設の建設 	<ul style="list-style-type: none"> ◆広報誌やSNSを通じてママ友が増加(延べ240名参加) ◆婚活イベント(3回)、婚活セミナー(1回)を開催 ◆完成した「テイスサービスセンターグリーンホーム落合」や「グループホームとどろき」を利用しての高齢者支援の充実
	出向く活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ●担い手・法人組織等へ積極的に出向き、情報提供活動とニーズに応じた資金の提供 ●共済契約者への全戸訪問による保障の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ◆担い手・法人組織等504先へJA役員と同行訪問を実施 ◆全戸保障点検を通じた、農業経営リスクを踏まえた保障提案の継続
結びつき強化・経営基盤の強化	組合員・地域住民との交流活動	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の特色を活かした支店行動計画の実践 ●支店ふれあいプラン ●農業まつり ●農家組合球技大会 ●1支店1企画旅行 ●組合員加入促進運動(1戸複数組合員化の取組み) ●次世代リーダーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全27支店で支店行動計画を実施 ◆全27支店でふれあいプラン、各地域で農業まつりを開催 ◆農家組合が一堂に会したソフトボール大会を開催、全27支店で企画旅行を開催 ◆組合員加入促進運動の展開(平成30年6月より組合員加入パンフレットを配付、キャンペーンを開催)
	各種媒体を利用した情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●広報誌「ぼらーの」や支店だより、地域コミュニティ紙「結農」による定期的な情報発信 ●SNSを利用したタイムリーな情報提供の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成29年7月と10月にコミュニティ紙を発行(各47,000部) ◆ホームページやフェイスブックで営農情報や生活部門の情報を定期的に発信(延べ約200回更新)
	財務基盤強化と経営健全化	<ul style="list-style-type: none"> ●部門別場所別損益管理による事業の効率化、計画的な内部留保・出資配当の継続 ●業務改善計画の実践、実効性のある内部監査の実施 ●階層別研修・事業別専門研修による職員育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆利益剰余金5,544百万円、出資配当を継続できる健全経営の維持 ◆コンプライアンス研修会、業務改善実践会議を実施、併せて階層別研修会等により職員育成、不祥事再発防止策を講じた

挑戦!!
自己改革



JAいわて花巻食育戦士「ミレットマン」

JAいわて花巻 第3次中期経営計画

[第3次
営農振興計画]

進捗状況報告書

【平成28年3月1日～平成30年2月28日】

- ### 基本目標

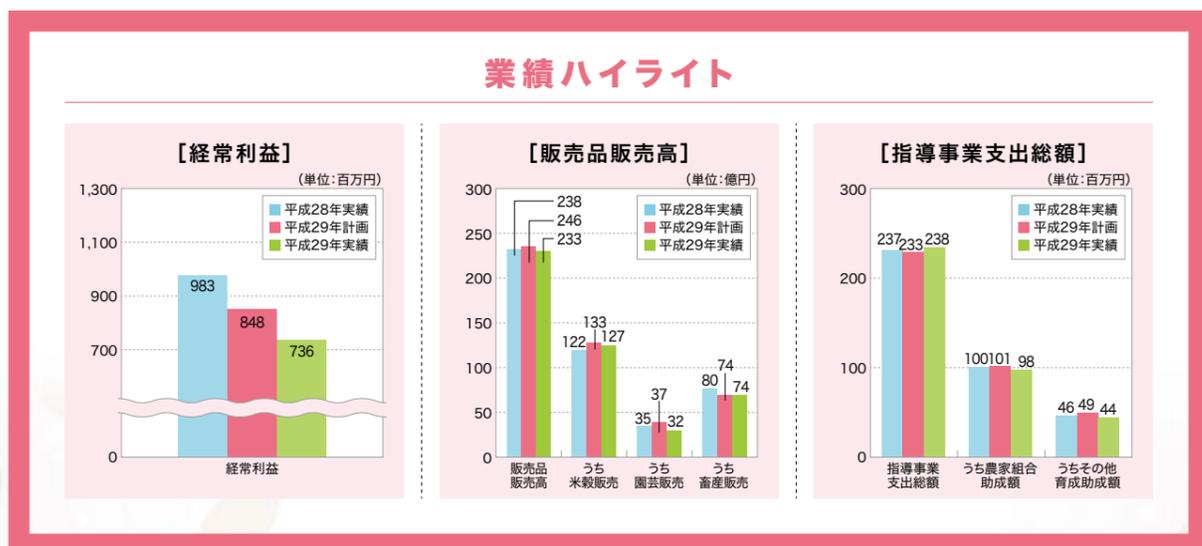
 1. 農業者の所得増大、農業生産の拡大(最重要目標)
 2. 地域の活性化、協同活動の活性化
 3. 結びつき強化、経営基盤の強化

第3次中期経営計画(平成28年度～平成30年度)の中間年度として、「農業者の所得増大・農業生産の拡大」を最重要目標と掲げ役員が一丸となり重点施策に継続して取り組みました。

農業者の所得増大に向け、全地域での水稲穂もち防除剤統一や平成30年産からの水稲基肥愛農土シリーズの成分変更による生産資材コストの低減・省力化に取り組みました。また、天候不順の影響を多分に受けましたが、販売品販売高250億円の達成を目指して、実需者から継続して選ばれる産地となるべく米集荷200万袋運動や、「銀河のしずく」のブランド化の実践に引き続き取り組みました。農業生産の拡大に向けた取り組みの柱として園芸振興を掲げ、収益性の高いアスパラガス・ピーマン等の作付推進に継続して取り組み、法人・集落営農組織での園芸品目導入が50組織に拡大するなど、園芸振興を図りました。

支店を核としたJA運営方針のもと、農家組合や女性部・青年部等の組合員組織との連携によりふれあいプランや農業まつり等を実施したほか、食育・食農教育や子育て世代・高齢者支援にも積極的に取り組みました。

平成27年7月に実施した組合員意向調査結果を真摯に受け止め、組合員・地域住民の皆様へ信頼され、必要とされるJAとなるようさらに取り組みを継続・強化していきます。



JAいわて花巻は、「農業者の所得増大」と「地域の活性化」のため、自己改革に取り組んでいます！

基本目標	重要施策 重点実施事項	具体的取組み内容	取組み経過・今後の取組み等	目標		
				平成28年	平成29年	平成30年
農業者の所得増大・農業生産の拡大	販売体制の強化	販売額250億円 ●行政と連携したトップセールスの実施 ●地域特性を活かした生産振興(園芸産地拡大実践プラン)と販売戦略の構築	◆最重点品目としてのピーマンの生産拡大 ◆行政・関係機関との一体的な推進	計画 228億円	246億円	250億円
		●米集荷200万袋運動の実施 ・農家組合、水稲部会等と連携した集荷推進の実施 ・加工米複数年契約や全農買取販売の検討、実施	◆平成29年産は天候不順等の要因により目標未達 ◆「銀河のしずく」の食味向上とさらなるブランド化 ◆複数年契約栽培や買取方式による取組みを実施	実績 238億円	233億円	—
		●りんご・ぶどうの優良品種・系統への切替え (需要期に安定販売できる産地づくり)	◆PRと消費者ニーズの把握を目的としたトップセールスの継続実施 ◆計画的改植の継続推進 (年間新目標面積りんご5ha、西洋なし0.1ha、ぶどう0.3ha) ◆若手生産者グループの活動支援	計画 200万袋	200万袋	200万袋
	園芸振興	●一億円販売園芸団地の推進 ●第2次アスパラガス作付け倍増運動の継続実施(アスパラガス作付け目標面積180ha)	◆管内事例研修会・新規栽培説明会の開催 ◆取組組織・面積の増加 (平成28年度 38組織40ha→平成29年度 50組織54ha) ◆労力確保に向けた行政等関係機関との継続協議	計画 668百万円	670百万円	693百万円
				実績 763百万円	660百万円	—
園芸振興	●「農の匠」制度と連携した営農指導充実強化 ・重点作物毎に地域の中核農家を「農の匠」に委嘱 ・担い手支援アドバイザーによる担い手・営農組織への指導(訪問活動の強化)	◆管内事例研修会・新規栽培説明会の開催 ◆取組組織・面積の増加 (平成28年度 38組織40ha→平成29年度 50組織54ha) ◆労力確保に向けた行政等関係機関との継続協議	計画 152ha	176ha	180ha	
園芸振興	●「農の匠」制度と連携した営農指導充実強化 ・重点作物毎に地域の中核農家を「農の匠」に委嘱 ・担い手支援アドバイザーによる担い手・営農組織への指導(訪問活動の強化)	◆管内事例研修会・新規栽培説明会の開催 ◆取組組織・面積の増加 (平成28年度 38組織40ha→平成29年度 50組織54ha) ◆労力確保に向けた行政等関係機関との継続協議	実績 124ha	129ha	—	
営農指導体制の構築	●「農の匠」制度と連携した営農指導充実強化 ・重点作物毎に地域の中核農家を「農の匠」に委嘱 ・担い手支援アドバイザーによる担い手・営農組織への指導(訪問活動の強化)	◆平成29年度は「農の匠」29名を委嘱(平成28年度 25名) ◆地区別に担い手支援アドバイザーを配置、出向く活動の継続実践(情報提供・サポート事業の推進等)	計画 TAC訪問 50先/月	TAC訪問 50先/月	TAC訪問 50先/月	
営農指導体制の構築	●「農の匠」制度と連携した営農指導充実強化 ・重点作物毎に地域の中核農家を「農の匠」に委嘱 ・担い手支援アドバイザーによる担い手・営農組織への指導(訪問活動の強化)	◆平成29年度は「農の匠」29名を委嘱(平成28年度 25名) ◆地区別に担い手支援アドバイザーを配置、出向く活動の継続実践(情報提供・サポート事業の推進等)	実績 28先/月	28先/月	—	
生産資材コストの低減と農業生産の省力化・効率化 表1	●水稲穂いもち防除剤の統一によるコスト低減 ●肥料・農薬大口対策、農業担い手生産組織対策の実施 ●水稲基肥(愛農土シリーズ)の成分見直しによるコスト低減・省力化	◆コラトップへの品目統一による11%の価格引下げを実施 ◆肥料・農薬大口対策、農業担い手生産組織対策、BB肥料大規模農家対策の継続実施 ◆平成30年産米用からの供給を開始(平成29年11月より配達開始) ◆特別栽培米用の展示圃試験を開始	計画 検討	11%引下げ/10a当り	11%引下げ/10a当り	
			実績 検討	11%引下げ/10a当り	—	
			計画 試験実施	試験実施	17~23%引下げ/10a当り	
実績 検討	試験実施	—				



純情りんご「紅いわて」のトップセールス



一億円販売園芸団地の取組み

表1 水稲基肥愛農土シリーズ価格比較表(単位:円/10a)

【愛農土1号】		平成28年	平成29年	平成30年
■ 愛農土1号	8,166円	7,614円	6,293円	
■ 賢治の教え1号	4,149円	4,149円	4,149円	
■ NKC-17号	561円	509円	506円	
◆ 合計	12,876円	12,272円	10,948円	

注)各種奨励金は考慮していません

組合員意向調査(平成27年7月実施)一部抜粋

